

「先生にとって昨年を振り返りいかがでしたでしょうか？」

平成30年1月2日

●お茶番号さんからの質問

今年は来年よりかは益しだろうという点で今年が良い年でした。先生にとって今年を振り返りいかがでしたでしょうか？

●西田昌司の答え

昨年は、北朝鮮危機をはじめとして国防安全保障について根本的に考えさせられる年でした。危機的な状況に直面した年でしたが、それゆえに国を守るにはどうしたらよいかといった議論をせざるを得ない年でしたし、その意味では良い年であったのかもしれませんが。

森友問題・加計問題という二つのフェイクニュースによって自民党の支持率が下落して一時は非常に危うくなり、次に選挙をやったら自民党が大敗するだろうとの予測がされましたが、実際に選挙をすると自民党が大勝して民進党が分裂する事態となり、与党・野党ともに悲喜交交こもごもの年でした。

民進党の議員は、自民党に入りたかったけれども選挙事情で入れなかった人がいたり、旧社会党的な考えを持った人がいたり、端から無理はながあったのだと思います。それが今回の分裂騒ぎで希望の党や立憲民主党が結党され、党の方向性が民進党と比較してある程度鮮明になったのであればある意味、望ましいことだったのかもしれませんが。

「禍福は糾あぎなえる縄の如し」という諺のとおり、幸福と不幸はより合わせた縄のように交互にやってくるというのが世の中ですし、特に現在は何が起こるかわからないという時代です。良いことがあったようで実はそれが悪いこ

との前兆であったりと複雑な世の中ですが、何が起こっても今年が昨年よりも少しでも良い年となるよう、皆様とともに頑張っていきたいと思います。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>